

## 刊行にあたって

Springer Nature 社（ネイチャーグループ）のジャーナル『Evidence-Based Dentistry』に掲載された、インプラントおよび歯周外科におけるマイクロサージェリーのシステマティックレビューにおいて、筆者は「世界で初めてパピラの再建で良好な結果を出した歯科医師」として紹介された。

当該ケースは、国際的なジャーナルの一つである『Clinical Advances in Periodontics』（掲載予定）に報告される見込みである。

歯科臨床において長年の課題とされてきたパピラ（歯間乳頭）の再建は、偶発的に達成できるものではなく、さらに長期にわたりその状態を維持することは容易ではないと考えられる。

これを可能にするためには、すべての歯周外科処置をマイクロスコープ下で行い、かつ超低侵襲で高精度な手技を徹底することが不可欠である。

筆者は20年以上にわたりマイクロスコープ下で歯周外科を実践してきたが、術後に鎮痛剤を必要とした患者はほとんどおらず、著明な腫脹や後出血も認められていない。

これらの臨床結果は、筆者が確立してきたマイクロサージェリーが、極めて低侵襲性でありながら高い有効性があることを裏づけている。

本書では、その核心となる基本手技と臨床哲学を体系的に解説する。

2026年3月  
秋山勝彦